高齢者と介護者を地域のシステムに繋ぐプロジェクト

西尾 美登里 氏

福岡大学医学部看護学助手　看護学博士
九州大学医学系学府保健学博士課程卒

協働者

福岡市、イオン九州、認知症の人とその家族の会、男性介護者の会、福岡大学医学部：精神神経科准教授　尾籠晃司、看護学科教授・木村裕美、講師・坂梨左織、助教・西村和美

協力者

看護学科准教授・緒方久美子、福岡大学医学部長・朔啓二郎

私たちは、福岡市・イオン九州・家族会と共に、地域包括ケアシステムの啓発と、システムに繋がるための仕組みを検討することになりました。御財団から当該取組みへ御理解と御支援を賜り、感謝いたします。

わが国では、在宅ケアを支えるシステム構築が求められています。その背景において、少子高齢化の進展に伴う、病院での医療から在宅医療へのギアチェンジが挙げられます。要介護者の増加は、その家族の増加を意味し、私の研究対象者である「在宅で介護する男性」も年々増え続けています。介護破綻する割合は、男性が女性に比べ有意に高いことが明らかです。介護破綻の現場は、病院でなく地域・家庭内ですから、介護破綻をさせないためのシステム構築を検討において、市民の声を聞くことが必要です。介護破綻させない仕組みに地域包括ケアシステムは位置付けられ、システムへ繋ぐ活動は、政策に沿ったものとなります。

福岡市では、近年、若者人口が増加する一方、都市部における高齢者独居率20位内に2区が入っています。健康を手放し、近所付き合いが少なく、孤立死への不安を抱える高齢者が増加する一方、要介護状態になっても在宅の生活を望む高齢者が多いのです。

一昨年、私の行った調査では、介護保険の申請をしていない男性介護者は、2割以上でした。なぜ、地域包括ケアシステムなどの社会資源を利用しない・繋がらないのでしょう。きっと利用しない・繋がらないほうも言い分があるはずです。まずは、当事者に耳を傾け原因を明らかにし、包括ケアシステムへ繋げるための検討を経て、システムを稼働させることが必要です。当活動の場であるイオンモール香椎浜は、土日の集客数は4万人を超え、市民の声を聞く場として最適です。次年度は、実際に地域包括ケアシステムに繋ぎ、システムの促進を図り、広く市民へ還元する予定です。

参考文献

1) 小野ミツ,高崎絹子,佐々木明子ら：都市部と郡部における要介護高齢者虐待の比較検討.高齢者のケアと行動科学7(2)：53-61, 2000.
2) MIDORI N, MISTU O：Development of a nursing care problems coping scale for male caregivers for people with dementia living at home. Japan Rural Medicine. 34-42, 2015.
3) Midori N, Mitsu O, Hiromi K et al：Reliability and Validity of the Nursing Care Problems Coping Scale for Male Caregivers for People with Dementia Living at Home. International Journal of Nursing & Clinical Practices Volume 2 Article ID 2：IJNCP-130, 8 pages, 2015.
4) 西尾美登里,木村裕美,尾籠晃司ら：男性介護者と社会資源をつなぐ「ケアメンズキッチン」.コミュニティケア17(12) ,67-71,2015.